

令和6年度「農業支援サービス事業育成対策」審査・評価要領

第1 趣旨

この要領は、令和6年度「農業支援サービス事業育成対策」（以下「本事業」という。）の新規課題選定及び成果目標の達成状況の点検評価に当たって準拠すべき方法を定め、適正かつ円滑な審査に資することを目的とする。

第2 審査・評価委員会

- 1 本事業の補助金交付候補者の選定及び事業実施主体の成果目標の達成状況の点検評価に当たり、公正中立及び透明性を図るため外部の有識者（以下「外部委員」という。）を含む「農業支援サービス事業に係る審査・評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。
- 2 外部委員は、農林水産行政、農業現場や農業支援サービス事業等に精通し、公正中立の立場で選定審査できる者を農林水産省農産局長（以下「農産局長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会は外部委員3名以上と農林水産省農産局農産政策部技術普及課長及び事業担当課職員をもって構成する。
- 4 外部委員の任期は委嘱の通知の日から翌年度末までとし、再任は妨げない。また、外部委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員会に委員長を置き、外部委員の互選によりこれを選任する。
- 6 委員長に事故があるときは、あらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。
- 7 専門的見地から意見を聞く必要が生じたときは、委員会に参考人を出席させることができる。参考人は、公正中立の立場で発言できる者を農産局長が委嘱する。また、参考人は、委員会の要請により、あらかじめ申請者に対し内容等を聴取し、委員会の場で報告することが出来る。
- 8 外部委員及び参考人は、委員として行った職務において、知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、同様とする。

第2 選定審査・点検評価対象事業

- 1 委員会は、本事業における補助金交付候補者の選定審査について検討を行う。
- 2 選定審査・点検評価対象事業は、必要に応じて追加及び廃止できるものとする。

第3 運営

- 1 委員会の招集は、農産局長が行う。
- 2 委員会は、外部委員の過半数が出席しなければ開催できないものとする。但し、欠席した外部委員が別紙により意見を付して委員長に議決の権限の委任を行った場合は、委任を行った外部委員は出席したものとみなす。
- 3 審査に係る1回目の委員会開催は原則農林水産省農産局農産政策部技術普及課（以下「技術普及課」という。）がとりまとめ、2回目以降の委員会は必要に応じ持ち回り開催出来るものとする。
- 4 委員会の事務局は技術普及課に置くものとする。

第4 審査

- 1 委員会は、第5で定める審査基準に基づく委員の合議等により、提出された申請書類に対す

る評点を決定する。

- 2 委員会は、評点の高い申請から順に採択優先順位を定め、予算の範囲内で採択優先順位の高いものを補助金交付候補者として選定する。なお、評点と同じ申請が複数存在する場合、事業費の少ないものがより採択優先順位が高くなるものとする。
- 3 委員会は、必要に応じて申請書類等に対して修正・追記等の指摘を行うことができる。

第5 審査基準

- 1 審査項目及び点数配分は以下のとおりとし、事業計画に記載の取組及び併せて提出された資料を精査し、審査を行うものとする。

なお、事業の要件を満たす場合であっても、次に掲げる事項のいずれかに該当する場合は採択しないものとする。

- ・ 過去3か年に「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」（昭和30年法律第179号）第17条第1項又は第2項に基づく交付決定取消のある応募団体（共同団体を含む。）の場合
- ・ 審査項目1から3のいずれかにおいて審査委員の過半から2点以下の採点を受けた場合

審査項目	審査項目の詳細	点数配分
1 取組内容と実現可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組内容の実現可能性はどの程度か ・ 事業として発展していくことがどの程度期待できるか ・ 構成組織・人員等の面で実現できるような体制が整っているか 	特に優れている5点 (満点) 優れている4点 普通3点 やや劣る2点 劣る1点
2 農業現場への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働時間の削減やコストの低減等を通じて、どの程度農業現場の役に立つか ・ どの程度多くの農家の役に立つか ・ 取組が1つの産地に留まらず、広まることが期待されるか ・ 作業を外注するという意識を定着させ、農業現場・農業者の意識に変革をもたらすものであるか 	特に優れている5点 (満点) 優れている4点 普通3点 やや劣る2点 劣る1点
3 取組内容・技術等の新規性	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで農業現場で見られなかった新規性のある取組内容（例えば、農業機械のシェアリングなど）か ・ これまでなかったビジネスモデルであるか ・ その他、何らかの新規性があるか 	特に優れている5点 (満点) 優れている4点 普通3点 やや劣る2点 劣る1点
4 農業の高度化に資する取組の実施	① スマート農業技術の導入の取組と併せて、当該技術の効率性を高めるため利用者と生産方式の変革(※)に関する取り決めを行っているか	特に優れている10点 (満点) 優れている7点 普通3点 なし0点
	② 産地の労働集約型作物のニーズに対応したサービスであるか	特に優れている5点 (満点)

		優れている 3 点 普通 1 点 なし 0 点
	③ 輸出の拡大や、加工・業務野菜のシェア奪還を目指す産地などにおいて、低コスト生産に資するサービスであるか	特に優れている 5 点 (満点) 優れている 3 点 普通 1 点 なし 0 点
	④ 環境負荷低減と生産力向上の両立の実現に資するサービスであるか	特に優れている 5 点 (満点) 優れている 3 点 普通 1 点 なし 0 点
	⑤ 本事業の申請に係る農業支援サービス事業が農業競争力強化支援法（平成 29 年法律第 35 号）に基づく事業参入計画の認定を受けている	認定があれば 3 点
	⑥ 本事業の申請に係る農業支援サービス事業が環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（令和 4 年法律第 37 号。以下「法」という。）に基づく基盤確立事業実施計画の認定を受けている	該当があれば 3 点
	⑦ サービス提供先の農業者に、法に基づき、法第 19 条第 1 項及び 2 項に規定する環境負荷低減事業活動実施計画の認定を受けている有機農業者が含まれている	該当があれば 3 点

※生産方式の変革とは

- ①スマート農業技術に適した新品種（茎が長い、硬い、色、大きさ、着果のばらつきが少ない品種等）や、機械収穫に適した加工用・業務用の栽培品種の導入、または変更
- ②スマート技術に適した栽培方式の変革（省力樹形（樹形の直線的な配置）の導入、農作物の栽培方法や仕立の変更（着果位置の調整等）、畝間の拡大、圃場の形状の変更（区画拡大、ハウス底面のコンクリート化等）に対応した栽培体系の見直しなど）
- ③スマート技術を活用した収穫方法の変更等による出荷・販売方法の変革（加工用・業務用への販路の変更、出荷時期の調整など） 等

第 6 評価

- 1 農産局長は、事業実施主体から報告を受けた成果目標の達成状況について、点検評価を行い、その結果を踏まえた評価所見案を作成するものとする。
- 2 委員会は、農産局長が作成した評価所見案に対して委員の合議等により、必要に応じて修正させ、最終的な評価を決定する。

別紙

委任状

私こと、農業支援サービス事業に係る審査・評価委員
は、

年 月 日に開催される農業支援サービス事業に係る審査・評価委員会を
欠席しますので、議決に係る一切の権限を委員長に委任します。

年 月 日

氏名